

平成19-22年度「あいちの教育に関するアクションプラン」4年間の成果と課題及び次期プランの重点目標

- アクションプランでは、政策指標の一つとして、地域活動への参加率やいじめの解消率、不登校児童生徒の復帰率を掲げ、子どもたちの体験・交流活動やスクールカウンセラーの設置拡大等による相談活動の充実などを推進してきた。また、平成19年度には、家庭教育の重要性を訴える「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の実践を、平成20年度には「モラルの向上」を、平成21・22年度には「情報モラルの向上」を重点テーマとして掲げ、焦点を絞った施策や啓発活動を展開してきたが、掲げた政策指標の目標値は達成できなかった。
- 今後、家庭・地域・学校の協働の下で、子どもたちの体験活動や人と関わりあう活動を推進するとともに、子どもだけではなく大人も含めた県民の幅広い参加の下で、モラルやマナーを向上するための取組を粘り強く展開していく必要がある。

【 今後の目標 】 幅広い県民の参加による道徳性・社会性の向上を図る。

- アクションプランでは、政策指標の一つとして、5日間程度の職場体験を実施する中学校の割合や特別支援学校高等部卒業生の就職・進学率を掲げ、子どもたちの職場体験や実習、インターンシップ等を推進してきた。その結果、21年度には全公立中学校（名古屋市立を除く。）において5日間程度の職場体験が行われるとともに、専門高校を中心としたインターンシップ等が行われてきたが、子どもたちの勤労観・職業観の育成は、いまだ大きな課題として残っている。
- 今後、中学校や専門高校だけでなく、小学校や高等学校普通科、特別支援学校においても、発達段階に応じたキャリア教育を計画的に実施していく必要がある。

【 今後の目標 】 発達段階に応じたキャリア教育を充実する。

- アクションプランでは、政策指標の一つとして、放課後に学習している児童生徒や多様な科目を開講している県立高校の割合を掲げ、少人数教育の実施や地域人材を活用した授業展開、高校の総合学科やコース制の設置など、学習意欲の向上を図る取組を実施してきた。しかし、子どもたちの主体的な学びの姿勢に、いまだ課題がみられる。
- 今後、きめ細かな指導の充実と学ぶ楽しさを味わわせる取組を一層推進していくとともに、多様なニーズに対応した魅力ある県立学校づくりを進め、子どもたちの学習意欲の向上と、学力の育成に取り組んでいく必要がある。

【 今後の目標 】 学習意欲の向上を図り確かな学力を育成する。

- アクションプランで掲げた4つの「あいちの人間像」は、いずれも、生涯にわたって、いつでもどこでも誰でも学ぶことができ、その成果を適切に生かすことができるといった「生涯学習社会の実現」があつてこそ実現が可能であることから、総合型地域スポーツクラブの設置促進や「学びネットあいち」の充実などにより、生涯学習の推進を図ってきた。
- 今後、県民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、幅広い分野の学習情報や学習機会の提供、地域における指導者の育成をさらに進めることはもとより、自立した地域社会の形成に向け、学んだ成果を生かして活動できる機会の充実に努める必要がある。

【 今後の目標 】 豊かな人生を送るために生涯学習を充実する。

- アクションプランで掲げた人間像に迫る取組を推進するためには、その基盤である教育環境を整えることが重要であり、35人学級や教員採用特別選考の拡充、県立学校の耐震化、NPOや産業労働団体・大学と県教育委員会との意見交換会などを実施してきた。
- 今後、優れた教職員の確保や教育施設・設備の整備、教育行政体制の充実など、魅力ある教育環境づくりの一層の推進に努めていく必要がある。特に、平成23年3月に発生した東日本大震災の被災状況を踏まえた対策が大きな課題となっており、災害発生時における児童生徒の安全確保を図るための、学校施設の耐震化を一層推進するとともに、防災教育や避難訓練を充実していく必要がある。

【 今後の目標 】 魅力ある教育環境づくりの一層の推進を図る。